

第64号

なら農業委員会だより

平成29年9月1日発行

発行・編集

奈良市農業委員会

〒630-8580

奈良市二条大路南一丁目1番1号

☎ 0742-34-4776 (ダイヤルイン)



奈良市でがんばる

農ガール 特集



主 な 内 容

- がんばるファーマーNo.24 (P2～3)
- 遊休農地解消モデル事業 (P3)
- 農業に関するアンケート集計結果 (P4)
- 農業委員会7月定例総会 (P5)

- 新農業委員紹介 (P6)
- 新農地利用最適化推進委員紹介 (P7)
- まいまい田んぼ田植祭 (P8)
- 編集後記 (P8)

○ 奈良市役所ホームページアドレス <http://www.city.nara.lg.jp> ※ホームページからもご覧いただけます。

○ 奈良市役所コールセンター TEL 0742-36-4894



このコーナーでは、地域でがんばっておられる農業者を紹介しています。

今回は、田原で主にお茶を作っておられる「田原ナチュラル・ファーム」の福井さんと、福井さんのお手伝いをされている「畑ヘルパー倶楽部」の見掛さん取材しました。

○畑ヘルパー倶楽部とは・・・

畑ヘルパー倶楽部は農家さんをお手伝いするボランティアグループです。お手伝いをしてお野菜やお米お茶などを得ています。

お手伝いの内容は、主に草刈りや肥料蒔きですが、少しでも多くの人で行う方が早くできます。技術的なことは農家さんに任せますが手慣れたメンバーは機械に乗る人もいます。お手伝いを続ける中で農家が置かれている厳しい現状を目の当たりにし、益々、手伝う事の重要性を感じられています。

○畑ヘルパー取り組みのきっかけ・・・

見掛さんは元々土や畑とは無縁でしたが、自然災害や食品の安全性の問題で食と繋がるが必要と考え、田原ナチュラル・ファームへ農作業の手伝いに行くようになりました。農作業をするうちに、地元農家さんから後継者不足による高齢化や耕作放棄の増加を知り、農業の将来に不安を感じて、自分に何かできることはないかと考えられました。

○畑ヘルパーの年代や人数は

現在の登録者数は約40名で女性が6割を占めています。年齢は、20代から50代と幅広く、比較的若い方が集まっています。また、食べ物に関心が高く、自分の食べ物は自分でという考えや、外での作業が好きな人という傾向があるそうです。今では、作物をいただけること以外にも五感の刺激によるリフレッシュや農家さんから感謝していただき充実感を得られる方も増えています。

寒冷紗(かんれいしゃ)をお茶の葉に被せていく福井さんと畑ヘルパー倶楽部の方



田原ナチュラル・ファーム

奈良市日笠町

福井 佐和さん(46歳)

畑ヘルパー倶楽部

奈良市大森町

見掛 加奈さん(51歳)



畑ヘルパー倶楽部
代表
見掛 加奈さん

田原ナチュラル・ファーム
代表
福井 佐和さん

○畑ヘルパーの事業のポイントは・・・

お手伝いのお礼が作物なので、農家さんの金銭的負担が少ないことと、参加者全員が保険に入って万全を期しておられることです。

参加者は、お手伝い出来る時に行く、「お気軽ヘルパー」毎月定期的にお手伝いする「月会員ヘルパー」またお野菜等の購入を目的とした「お買い物ヘルパー」の3通りから選べます。また食育という面からも、お子さんに参加いただくことで、小さいころから農業の良さを理解し、虫を怖がったり土で汚れることを嫌がったりしないのではと考えておられます。

○今後の課題や取り組みについて・・・

田原ナチュラル・ファーム 今後も農業体験を通じて、少しでも多くの人に農業の大切さを感じていただき、田原を活性化するためにも、たくさんの人に足をお運びいただきたいと思っています。そして、大好きな田原の農業再生の手助けになればと思っています。

畑ヘルパー倶楽部・・・みんな気持ちよく参加するをモットーに会員同士のコミュニケーションにも気を配り、持ち帰る野菜等にも不公平が無いように心がけていきます。当面の課題は、会員と農家さんの募集であり、そのための広報活動です。婚活イベントを実施し、好評であったため継続的にを行い、さらに畑ヘルパー倶楽部の周知活動に努めます。

平成29年遊休農地解消モデル事業



農業委員会では、増加傾向にある遊休農地の発生防止並びに解消に向けた取り組みとして、モデルほ場を設置し、農業委員自らが肥培管理（草刈・耕起・定植・収穫・整地など）すると共に、看板「遊休農地を解消しよう」を設置し、地域住民への農地の有効利用を促しています。平成29年は、七条町（西ノ京病院すぐそば）のモデルほ場（約400㎡）で景観形成植物の「菜の花」を植栽し、周辺地域の方々の目を和ませ、遊休農地解消のPRに努めました。



田原ナチュラル・ファーム生産
「ゆいのお茶」写真は緑茶・ほうじ茶

○田原ナチュラル・ファーム・・・

日笠町のお茶農家の福井さん。お家は家族で主に大和茶と米を生産しておられます。田原ナチュラル・ファームでは、少量多品種で生のサラダ野菜（紫のからし菜やルッコラなど）や、小松菜・蕪・里芋・お茶などを栽培しています。

農業や化学肥料・除草剤を使わない自然農法で栽培しており、肥料は生ゴミ等を糠で発酵させて微生物を活性化させています。

○畑ヘルパーを受け入れた理由・・・

佐和さん自身が援農経験者ですが、少しでも人手があると効率がいいと思ったそうです。他の農家さんでも畑ヘルパーさんに入っていただくことで、かなり助かったと喜んでおられます。

平成28年度 農業に関するアンケート集計結果

今年のアンケート調査は、市内でも特に東部山間地域の方の意見を参考にすることを目的として東部地域で開催されたイベントである、阪原町「コスモス祭り」と都祁白石町「つげまつり」への参加者を対象として実施いたしました。今回は「コスモス祭り」への来場者150名、都祁白石町「つげまつり」への来場者150名の併せて300名の方から貴重なご意見・意向を聞くことができました。

ご協力いただいた皆様、本当にありがとうございました。

回答状況についてですが、来場者の年齢構成についての平均年齢は60歳以上が59%と、過去のアンケートと比べ若干ではありますが高齢者の割合は例年より少なかったのが特徴です。

今回の調査では農業問題の中でも「遊休農地の解消」を主なテーマに掲げてのアンケート内容として地域農業の活性化の啓発に繋がることを目指しました。ただ、農業形態に非農家と答えた方が多かったのは、平坦や市外からの来場者が多かったものと思われ、結果が数値として反映されています。

農業問題で今後取り組んで欲しい事項については鳥獣の被害対策と地産地消が多く60%を占め鳥獣の被害対策については行政による対策の強化に、地産地消については直売所の増設に強い期待が持たれています。

遊休農地の解消に向けて今後の取り組みとして期待されているのは、新規就農者を増やすために農村と都市の交流を活発に働かせることが33%と一番多く、担い手育成のために農地中間管理機構の利活用を図ること、人・農地プランについては体制の強化を図ることが意見として約3割弱を占め、農業に対する行政への期待を結果から見受けられました。

今後は、更に行政及び関係機関が連携し、農業・農村の維持発展に取り組んで行くことが肝要だと思えます。

なら農業委員会

農業に関するアンケート

このアンケートは、平成28年度の農政活動の一環として、農業に関するご意見を皆様からお願いいたします。その結果を地域農業の活性化のための施策のさらなる改善策を行う基礎資料として活用いたします。ご協力をお願いいたします。

問1 調査項目 (該当する番号を1つ、○で囲んで下さい。)

性別 ① 男 ② 女

年齢は、おいくつですか。 ① 39歳以下 ② 40歳代 ③ 50歳代 ④ 60歳代 ⑤ 70歳以上

お住まいはどちらですか。 ① 平 坦 ② 山 間 ③ 市 外

農家ですか、非農家ですか。 ① 農 家 ② 兼業農家 ③ 非農家

農家もしくは兼業農家のかたにお伺いします。後継者はいますか。 ① いる ② いない

問2 農業問題で取り組んでほしいと思うことは何ですか。(複数回答可)

① 農産物価格の低迷 ② 食料自給率の向上 ③ 農村集落(里山)の保全
④ 農業参入の支援 ⑤ 地産地消の推進 ⑥ 鳥獣被害対策の強化
⑦ その他()

問2で③、⑥を選択されたかたは以下の質問にお答えください。(複数回答可)

① 地産地消を推進するためにどのような取り組みが効果的だと思われるか。
② 学校給食等の活用 ③ 直売所の増設 ④ 6次産業化への支援
⑤ その他()

① 鳥獣による被害対策にはどのような対策が効果的だと思われるか。
② 行政による対策強化 ③ 狩猟免許取得の支援 ④ 猟友会の活動促進
⑤ その他()

問3 遊休農地の解消にはどのような取り組みが効果的だと思いますか。(複数回答可)

① 担い手育成のため農地中間管理事業(※1)を利用する
② 人・農地プランの体制強化
③ 集落営農組織の整備促進
④ 都市と農村の交流を強化して新規就農者を増やす
⑤ その他()

問4 農業全般について、ご意見・ご感想がありましたらお書きください。

(※1) 農地中間管理事業とは
法律に基づき、農地の有効利用を図るために農地の貸し借りをお手伝いする奈良県農地中間管理機構を指し、「公益財団法人 なら担い手・農地サポートセンター」のこと。
ご協力いただき、ありがとうございました。

● メリットがたくさんある農業者年金に加入して、老後に備えましょう。

加入要件は

- ①年 齢 要 件 … 60歳未満
- ②国民年金の要件 … 国民年金第1号被保険者
- ③農 業 上 の 要 件 … 年間60日以上農業に従事

上記3つの要件を満たす人は誰でも加入できます。
農地を持っていない農業者、配偶者、後継者などの家族従事者も加入できます。



POINT 1

保険料の国庫補助

特定の要件を満たす農業者には、一定の条件の下で保険料の国庫補助が受けられます。

POINT 2

税制上の優遇措置

- ①支払う保険料は全額社会保険料控除の対象
- ②受けとる年金は公的年金等控除が適用
- ③運用費も非課税

POINT 3

80歳まで保証

仮に加入者や受給者が80歳前に亡くなられた場合でも「死亡一時金」をお支払いできます。

平成29年度 奈良市農業委員会7月臨時総会を開催しました



来賓あいさつ
奈良市議会副議長
植村 佳史 氏

【委員一覧は6面・7面】

農業委員会等に関する法律の改正により、農業委員会の委員の選出方法が変更されました。選挙による委員の選出がなくなり、すべて市町村長が選任することになりました。また、農地利用最適化推進委員が新設され、農業委員会から委嘱されます。

この度、任期満了に伴い、7月20日に農業委員任命式・農地利用最適化推進委員委嘱式が執り行われ、農業委員18名が任命され、農地利用最適化推進委員18名が委嘱され、合わせて36名で新体制の農業委員会がスタートしました。

初総会は7月20日午後2時から奈良市役所において開催され、来賓（奈良市議会副議長植村佳史氏）あいさつ後、議事に入りました。

会長・副会長の選任並びに農地利用最適化推進委員の委嘱について上程されました。どの議案も滞りなく審議がなされ、満場一致で採択され閉会となりました。

会長就任にあたって

奈良市農業委員長

巽 一 孝



この度、任期満了に伴い農業委員18名、新たに農地利用最適化推進委員18名、合わせて36名の奈良市農業委員会委員が決まり、臨時総会におきまして委員各位のご推挙により、会長に選任いただき、この重責に身の引き締まる思いでございます。

平成28年4月から、農業委員会等に関する法律が改正され、農地等の利用の最適化の推進が重要な必須事務となり、農地利用最適化推進委員が新設されました。

私たちは、農業者の公的代表として、地域の農業者の声を行政等に反映させ、農業・農村の維持発展を支援すると共に、農業委員・推進委員が密に連携し、それぞれの使命を十分に果たしていき、二人三脚でその推進に取り組むことが重要です。

今後とも、皆様方の暖かいご支援とご協力によりまして業務を推進して参りたいと思っておりますので、なお一層のご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

お悔やみ申し上げます

故平田 芳道（奈良地区） 平成27年12月24日ご逝去
故久保田清隆（月ヶ瀬地区） 平成27年8月7日ご逝去
農業委員会活動にご尽力いただいております平田芳道委員、久保田清隆委員がご逝去なさいました。
謹んでお悔やみ申し上げます。（敬称略）

退任された農業委員

この度の農業委員の任期満了により、7月19日をもって次の方々が退任されました。（敬称略）

高杉 小川 北川 今西 出川 松本 吉井 今井 西井 吉井 藤岡 小西 岡田 辰巳 中田 荻田 今里 大西 谷口 大畑 嶋田 吉村 北中 大西 崇夫（奈良地区）
正純（都跡地区）
信男（都跡地区）
圭堂（平城地区）
稔（富雄地区）
志（辰市地区）
清實（明治地区）
亮（東市地区）
吾（柳生地区）
文（大柳生地区）
貢（東里地区）
文（狭川地区）
功（月ヶ瀬地区）
則（並松地区）
次（都祁地区）
隆（都祁地区）
茂（六郷地区）
正美（農業協同組合推薦）
勝雄（農業共済組合推薦）
道平（土地改良区推薦）
嘉次郎（市議会推薦）
正延（市議会推薦）
良晃（市議会推薦）
正一（市議会推薦）
美根子（市議会推薦）

新農業委員 推進委員の紹介

平成29年7月20日から次の方々が
農業委員・推進委員に就任され、
奈良市の農業振興のためにご活躍
いただいております。

農 業 委 員	奈良 副会長 中田 武文 白毫寺町175番地 0742-54-1317	大安寺 川崎 待子 法華寺町853番地 0742-33-0382	都跡 武野 義男 大安寺四丁目4番30号 0742-61-2609	都跡 藤井 昭 尼辻中町3番36号 0742-81-7361
	奈良 福山 寛 法華寺町419番地 0742-33-8753		都跡 谷口 幸央 七条一丁目18番13号 0742-44-6977	

農 業 委 員	田原 副会長 中尾 義永 日笠町648番地 0742-81-0355	柳生 筒井 俊彦 興ヶ原町644番地 0742-94-0550	大柳生 山中 正三 大柳生町1601番地 0742-93-0458	東里 羽坂 まさ子 須川町1018番地の1 0742-95-0053
	田原 窪田 弘 矢田原町743番地 0742-81-0178	柳生 須川 章夫 水間町1102番地 0742-81-0745	大柳生 神田 隆夫 柳生町1879番地 0742-94-0963	東里 堂前 喜秀 大慈仙町545番地 0742-93-0299
推 進 委 員			東里 奥田 義博 東鳴川町76番地 0742-95-0846	狭川 吉田 義教 下狭川町645番地 0742-95-0075

農 業 委 員	平城 西澤 成晃 中山町1335番地の2 0742-47-7570	伏見 長谷川 義廣 菅原町596番地 0742-44-6994	富雄 今中 初雄 石木町274番地 0742-45-2555	富雄 久田 雅美 東菜畑2丁目938番地9 0743-75-2824
	平城 加藤 次夫 山陵町219番地 0742-33-7567		富雄 大木 博 二名平野一丁目2068番地 0742-45-2222	

農 業 委 員	東市 山下 恵子 古市町447番地 0742-61-2437	帯解 松村 樫太郎 今市町427番地 0742-61-8185	精華 会長 巽 一孝 中畑町401番地 0742-62-9375
	東市 古谷 隆昭 古市町385番地 0742-62-2704	辰市 廣岡 政則 杏町22番地の1 0742-61-8026	明治 山中 浩 北之庄町394番地 0742-62-2828

農 業 委 員	月ヶ瀬 面浦 博文 月ヶ瀬桃香野4897番地 0743-92-0351
推 進 委 員	月ヶ瀬 稲森 源治 月ヶ瀬石打849番地 0743-92-0558
	月ヶ瀬 今中 武臣 月ヶ瀬瀨287番地 0743-92-0378

農 業 委 員	都祁 西村 弘道 都祁吐山町332番地の1 0743-82-0855	都祁 向井 美典 上深川町1009番地 0743-84-0180
推 進 委 員	都祁 西川 浩史 都祁甲岡町182番地 0743-82-0682	都祁 福島 康信 針町2853番地 0743-82-1180
	都祁 木村 好成 針ヶ別所町702番地、703番地 0743-84-0485	

まいまい田んぼ田植祭 2017

・女優のいとうまい子さんが奈良市東部地区で稲作・・・

いとうさんは、奈良県内のファンが贈った田原地区の米を食し「今まで食べたお米の中で一番美味しい」と感激され、2013年に同地区を訪問されました。

2014年の5月から田原地区中貫町にある約500㎡の田んぼで、地元農家の方々やファンの方々と一緒に米作りを始めたそうです。いとうさんの田んぼは「まいまい田んぼ」と名付けられ、現在は奈良市観光大使でもいらつしやいます。

今年からは、場所を大柳生地区阪原町に変え、元農業委員でもある中田清文さんと、地元阪原町やボランティアの方々の協力を得て、約3000㎡の田んぼに「ヒノヒカリ」を植え付けました。

秋には、収穫祭も企画されているそうで、いとうさんと中田さんは、奈良市東部地区農業の発展や活性化になればと日々尽力しておられます。

ご主人と一緒に



いとうまい子さん

『農地パトロール』の実施について

奈良市農業委員会は、毎年市内全域で農地の利用状況調査を行い、農地が適切に耕作・管理されているかどうか、調査しています。

農業委員・農地利用最適化推進委員が農地の周辺で調査を行いますので、皆様のご理解・ご協力をお願いします。遊休農地となっている農地については、調査結果の整理後、所有者の方に利用意向調査等をしていきます。

《実施予定》

平成29年

9月～11月頃



編集後記

昨今の農家事情は、後継者不足に加えて、高齢化等による耕作放棄地や遊休農地の増加が深刻化しております。その結果、農業従事者が減少し、一部の農業従事者が、機械化された大規模農業によって農産物を生産しています。こうした農業者人口の減少がもたらす遊休農地や担い手不足が今後解消されない限り、日本の農業に未来はありません。今の子供たちにも明るい農業施策として、将来のビジョンを明確にして次世代に継承していききたいものです。

今回掲載させて頂きました「畑ヘルパー」は、地元田原地区の農家さんと民間企業が一体化した新しい取り組みとして注目されています。今まで農業に携わったことのない方で一人でも多くの人に農業の良さを感じていただき、次世代に食の大切さ伝えていくための努力をされています。ナチュラルグリーンライトの見掛けさんや日笠町の福井さんにご協力頂き、色々とお世話になりました。

今後も、この広報が皆様への情報誌としてより一層、紙面の充実に努めますので、ご意見等ございましたらお寄せいただきますようお願いいたします。

なら農業委員会だより 担当委員

全国農業新聞



経営とくらしに役立つ

情報をお届けします！

農家のための情報誌

【全国農業新聞】

◆発行日 週1回（金曜日）

◆発行元 全国農業会議所

◆購読料 月700円

〔送料・税込み〕

○お申込は農業委員会事務局
(34-4776) まで。